

日本精神障害者
リハビリテーション学会
第32回札幌大会

プログラム集

「ともにつくる」を北の大地で考える
ー共創社会の未来に向けてー

会期

2025年10月25日(土)~26日(日)

会場

札幌医科大学 札幌市中央区南1条西17丁目

〈主催〉 日本精神障害者リハビリテーション学会・第32回札幌大会実行委員会

目次

●開催概要	2
●大会長挨拶	3
●参加者への案内	4
●登壇者への案内	6
●会場アクセス	8
●会場見取り図	9
●プログラム表	11
●プログラム一覧	15
●後援団体	27
●大会組織	27
●協賛一覧	28
●広告	29

開催概要

日本精神障害者リハビリテーション学会 第32回札幌大会

テーマ 「ともにつくる」を北の大地で考える — 共創社会の未来に向けて —

会 期 2025年10月25日（土）～26日（日）

会 場 札幌医科大学 教育研究棟・保健医療学研究棟
〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目
TEL: 011-611-2111

大会長 池田 望
札幌医科大学保健医療学部作業療法学科 教授
日本精神障害者リハビリテーション学会 理事

主 催 日本精神障害者リハビリテーション学会

ホームページ <https://www.knt.co.jp/ec/2025/japr32/>

開催目的 本大会は精神障害者リハビリテーション学に関する研究発表、連絡・提携および研究の促進を図り、これらの進歩、普及に貢献することを目的としています。

■学会事務局

日本精神障害者リハビリテーション学会事務局
〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目
札幌医科大学保健医療学部
作業療法学第二講座
池田研究室

■運営事務局

近畿日本ツーリスト(株) 札幌団体旅行支店
『日本精神障害者リハビリテーション学会
第32回札幌大会』担当デスク
〒060-0003 札幌市中央区北3条西2丁目 NX札幌ビル6階
T E L : 011-280-8855
E-MAIL : s-mice@or.knt.co.jp

大会長挨拶



日本精神障害者リハビリテーション学会
第32回札幌大会

大会長 **池田 望**（札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科）

日本精神障害者リハビリテーション学会は精神障害をもつ人々のリハビリテーションに携わる多くの職種が一堂に会し、その実践と理論の質を高める場となることを目的に平成7年に設立されました。多職種・多領域・多分野協働という、当初より学際的な視点を持っていた学会ですが、現在は「ともに創る、ともに暮らす」をスローガンに障害をもつ当事者も運営に参画しています。

この度、この日本精神障害者リハビリテーション学会の第32回大会を2025年10月25日（土）、10月26日（日）を会期として札幌医科大学にて開催致します。近年、医療研究開発の推進には患者や市民参加（PPI：Patient and Public Involvement）が欠かせないと考えられるようになりました。これは精神障害のリハビリテーションにおいても同様です。本当に必要なサービスを開発するには当事者や関係者相互の「対話」や「協働」が求められます。そこで、今大会のテーマは「「ともにつくる」を北の大地で考えるー共創社会の未来に向けてー」としました。共創co-creationには「価値の創出」や、自己と他者や環境は完全には分離できないという「非分離性」の意味が含まれています。したがって、このテーマには、多様な人々が繋がり・協力して価値を創り出せる社会やリハビリテーションのあり方を議論する場にしたい、という思いを込めています。

学会のプログラム委員や実行委員には研究者、専門職、当事者、家族など、様々な立場の方に加わっていただき、準備を進めてまいりました。プログラムには一般演題の他、東京大学先端科学技術研究センター熊谷晋一郎教授らの特別講演、触法精神障害者のリカバリー、当事者・家族・支援者のコラボレーティブワーク、障害者就労のこれから、をテーマにした教育講演、各種シンポジウムや多数の自主企画が用意されています。また、北海道での開催は2000年に帯広大会、2010年には浦河大会があり、今回の札幌大会で3回目となります。そのような歴史を踏まえ、北海道の実情・実践から考えるリハビリテーションをテーマにした大会企画シンポジウム、大会浦河の取り組みを支えて来られた川村敏明医師らを迎えての大会長企画、北海道が舞台となったドキュメンタリー映画「どうすればよかったか？」を制作した藤野知明監督との市民公開トークイベントなど、北海道の地域性に焦点を当てたプログラムも企画しました。

10月下旬の北海道は紅葉がちょうど見頃となる時期です。もちろん秋の味覚も存分に堪能いただけると思います。多くの方のご来道、ご参加をお待ちしております。

参加者へのご案内（留意事項）

●参加受付

受付日時	10月25日（土） 9:30~18:00 10月26日（日） 9:00~15:00	場 所	札幌医科大学 教育研究棟1階エントランス （アトリウム）
------	--	-----	---------------------------------

※教育研究棟の西側、あるいは東側の玄関よりお入りください

●受付方法

事前参加登録をされた方

参加証をダウンロードし印刷したものをご持参ください。受付にてネームフォルダをお渡しします。

当日参加登録される方

当日参加登録費を受付にてお支払いください。なお、抄録集は受付にあるQRコードから読み取ってください。

当日参加登録費					
会 員	9,000円	非会員	11,000円	当事者・家族・学生	3,000円

●クローク

学会期間中、以下でクロークのご対応いたします。

場 所 札幌医科大学 教育研究棟1階D102講義室

利用時間 10月25日（土） 9:30~18:30

10月26日（日） 9:00~16:00

※貴重品は各自で管理していただくようお願いいたします。

●お車での来場について

近隣を含め、駐車場に限りがございますので、できるだけ公共交通機関の利用をお願いいたします。

お車でお越しになる場合は、札幌医科大学の職員駐車場には駐車できません。大学構内もしくは近隣にある有料のコインパーキングをご利用ください。

なお、大学構内のパーキングの割引認証は、附属病院の受診者や入退院送迎時にのみに適応され、学会利用による割引はございません。あらかじめご承知おきください。

●昼食・休憩所

昼食については、会場内で召し上がることも可能ですが、周囲にご配慮ください。ポスター・機器展示会場（教育研究棟3階C301・302講義室）を休憩・食事スペースとしてご使用いただくことができます。

参加登録時にお弁当を注文していた方は11:30~13:00の間に教育研究棟1階エントランス（アトリウム）の受付付近にてお引き取りが可能です。忘れずお越しください。

なお、ごみの持ち帰り・片付けにご協力をお願いいたします。

●キッズスペースについて

本学術集会では子連れでのご参加を歓迎いたします。会場内にキッズスペース（保健医療学研究棟1階E122講義室）を用意してお待ちしています。お子様、お子様のお世話をするための同伴者の参加費は無料です。

ただし、託児所の設置等はありませんので、お子様の監督責任は保護者の方をお願いします。なお、札幌医科大学周辺には、いくつか一時保育が可能な託児施設がございます。学会HPの「参加者へのご案内」のページに一時保育可能な託児施設のリストを掲載しておりますので、ご参照の上、ご利用の相談をしてください。

●懇親会

日 時 10月25日(土) 19:00～

会 場 キリンビール園

(中央区南3条西4丁目 アーバン札幌ビル7階：地下鉄南北線すすきの駅より徒歩3分)

参 加 費 6,000円

※事前登録された方へ

参加費は当日会場受付にてお支払いいただきます。その際に参加チケットをお渡ししますので、そのチケットをお持ちになり、懇親会会場にお越しください。

●注意事項

会期中は、原則として電話のお取り次ぎ、会場内でのお呼出放送は行いません。

会場内では、携帯電話はマナーモードに設定し、その他音の出る電子機器類のご使用はお控えください。また、ポスター会場および講演会場での写真撮影・収録・録音はご遠慮ください。

登壇者へのご案内

日本精神障害者リハビリテーション学会本大会においては、発表者に対して発表時に、発表演題に関連する企業などとの利益相反（COI）の有無および状態について申告することを義務づけております。

大会・学会企画、口述発表、ポスター発表、自主企画プログラムの発表者の皆様は、以下の内容を発表スライド、あるいはポスター内に含めてください。

・発表時、開示すべきCOIがない場合

COI開示

過去3年間に於いて、演題発表本演題発表内容に関連し、発表者らに開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

・発表時、開示すべきCOIがある場合

COI開示

過去3年間に於いて、演題発表内容に関連し、筆頭および共同発表者が開示すべきCOI関係にある企業などは以下のとおりです。

1. 役員、顧問職
2. 株の保有
3. 特許権使用料
4. 講演料
5. 原稿料
6. 研究費
(※上記例示)

●口述発表セッションの発表者の皆様へ

(1) スライドについて

- ・発表はWindows版のMicrosoft Power Pointでの発表となります。
- ・スライドのサイズの縦横比の設定は3:4、9:16のどちらでも対応可能です。
- ・文字化け、レイアウト崩れを防ぐため下記フォントでのスライド作成を推奨いたします。
MSゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝、Arial、Century, Century Gothic Times New Roman
- ・発表スライドはUSBに保存し、当日持参してください。発表するセッションの1時間前までに教育研究棟1階エントランス（アトリウム）の受付付近にある「演者PC受付」にお越しいただき、PCへの保存と動作確認をお願いいたします。
※10月26日（日）の9:30開始となる口述発表5・6の発表者は、10月25日（土）のうちにPCへの保存と動作確認を済ませてください。困難な場合は、運営事務局までご連絡をお願いいたします。
- ・ご提出いただく際は、発表データのファイル名を「発表番号_演者氏名」としてください（例：O-9-01_札幌太郎）。
- ・発表データは学会終了後、事務局で責任を持って消去いたします。

(2) 発表について

- ・各演題の時間配分は「発表10分、質疑・討論5分」の計15分となります。
- ・終了時間1分前にベルを1度、終了時間にベルを2度、鳴らしてお知らせいたします。円滑な進行の為、座長の指示のもと、時間厳守での発表をお願いいたします。
- ・ご自身のノートパソコンでの発表はできません。
- ・発表にあたってのパソコンの操作はご自身でお願いいたします。演台上には、マイク、パソコン、キーボード、マウスを用意いたしますので、その後の操作は各自で行ってください。口述発表会場はスライドが2つのスクリーンに投映される使用になっているため、ポインターの操作が必要な場合はPowerPointの「ポインターオプション」をご使用ください。
- ・セッション開始予定時刻の15分前までに、会場前方の「次演者席」までお越しください。

●口述発表セッションの座長の皆様へ

- ・担当セッション開始予定時刻の15分前までに、会場前方の「次座長席」までお越しください。
- ・時間内でセッションを進行していただきますよう、ご協力をお願いいたします。

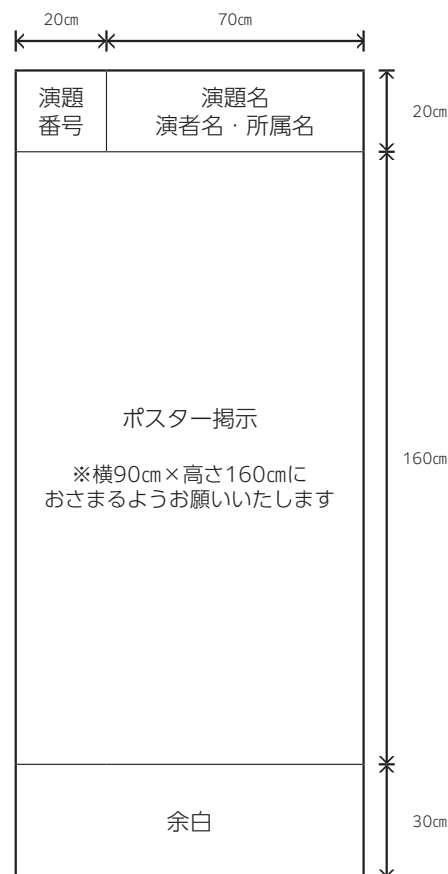
●ポスターセッションの発表者の皆様へ

(1) ポスターについて

- ・ポスターパネルのサイズは幅90cm×高さ210cmでご用意いたします。
- ・演題番号（縦20cm×横20cm）は、事務局にて用意し左上に掲示いたします。
- ・演題タイトル（縦20cm×横70cm）は、演題名、演者名、所属名を明記したものを各自ご用意ください。
- ・ポスターは抄録の記載内容が明確にわかるように作成してください。参加者が見やすいよう、内容は40ポイント以上で作成することを推奨いたします。

(2) 発表について

- ・ポスター会場は教育研究棟3階のC301講義室です。
- ・印刷したポスターを10月25日（土）の9:30～12:00の間に貼付し、大会期間中は掲示したうえで10月26日（日）の15:00～16:00の間に各自撤去してください。撤去時間内に撤去されなかったポスターは事務局にて処分しますのでご了承ください。
- ・発表時間は以下の通りとなりますので、発表時間の10分前までにポスター会場にお越しください。
 - 発表番号が奇数の演者：
10月25日（土）12:45～13:15
 - 発表番号が偶数の演者：
10月26日（日）12:45～13:15
- ・発表は座長を設定しないフリーディスカッション形式とします。発表時間内にご自身のポスター近くで待機し、随時参加者に対するプレゼンテーションとディスカッションをすすめてください。



●自主企画プログラムの発表者の皆様へ

(1) 会場設備について

- ・使用する会場は保健医療学研究棟3階のE334講義室（第6会場）、同5階E524講義室（第7会場）、E525講義室（第8会場）、E536講義室（第9会場）で、すべて平面の講義室です。50～60席の移動可能な机・椅子が配置されています。
- ・下記の機材、備品を各会場に準備させていただきます。下記以外の機材、備品で必要な物がございましたら、各自持込をお願いいたします。
PC (Windows 11)、HDMIケーブル、プロジェクター、スクリーン
- ・会場にはWi-Fi設備はございません。セッション時にWi-Fiを必要とされる場合は、ご自身でポケットWi-Fi等のご準備をお願いいたします。
※事務局からのポケットWi-Fi、有線LANの貸し出しはございません。

(2) 発表について

- ・発表時間の15分前までに各会場にお越しください。
- ・机や椅子の移動は自由ですが、終了時には原状復帰をお願いいたします。
- ・配布資料が必要な場合、ご自身で印刷したものをご用意ください。事前の配布や印刷などを事務局で請け負うことはできませんので、ご承知おきください。
- ・会場係は各会場を巡回し問い合わせには対応しますが、常駐はしません。参加者の誘導や印刷物の配布、開始と終了のアナウンス、質疑応答時の対応など、企画の運営とその補助は発表者のみなさまで担うようお願いいたします。
- ・円滑な大会運営のため、時間厳守での運営をお願いいたします。セッションによっては同会場で15分後に次の企画の準備が始まるため、終了時間になると企画の途中でも終了をお願いすることがあります。

会場アクセス



教育研究棟の西側、あるいは
東側の玄関よりお入りください



最寄り駅・バス停		経路
地下鉄	地下鉄東西線 「西18丁目駅」	(札幌駅・大通駅から) ・南北線「さっぽろ」駅(JR札幌駅直結)から「大通」駅(2分) ・「大通」駅で東西線「宮の沢」行に乗換え「西18丁目」駅(4分)下車 ・「西18丁目」駅6番出口より徒歩約3分。
市電	「西15丁目」	・「西4丁目」駅から「西15丁目」駅(8分)下車 ・「西15丁目」駅から徒歩5分。
バス	「医大病院前」	(札幌駅から、JR北海道バス) ・JR札幌駅 JR北海道バス(啓明線[51])「医大病院前」下車 ※現在、札幌駅周辺の工事のため、バス乗り場についてはJR北海道バスや札幌市のホームページを確認してください。 (桑園駅から、JR北海道バス) ・桑8:桑園円山線 [JR北海道バス] ※詳細は、JR北海道バスのホームページをご確認ください。

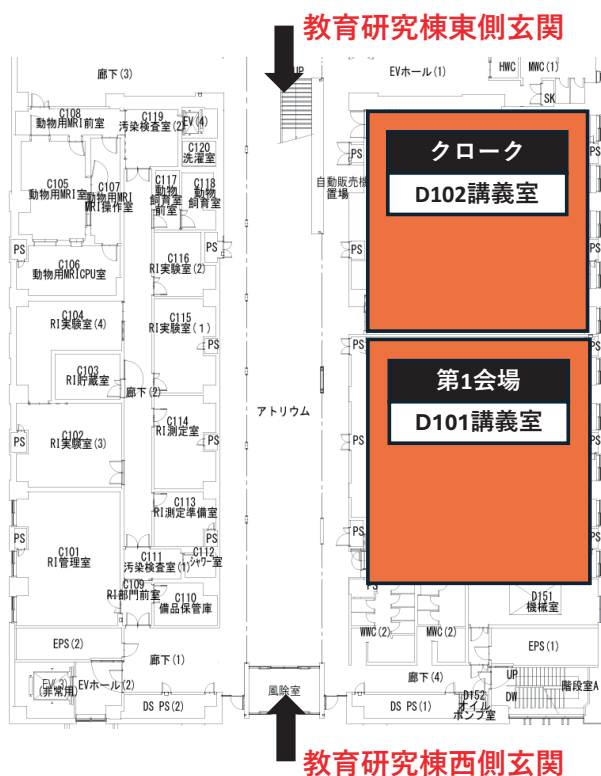
※お車でのお来場について

- ・近隣を含め、駐車場に限りがございます。環境への配慮を考慮し、できるだけ公共交通機関の利用をお願いいたします。
- ・お車でお越しになる場合は、札幌医科大学の職員駐車場には駐車できません。大学構内もしくは近隣にある有料のコインパーキングをご利用ください。なお、大学構内のパーキングの割引認証は附属病院の受診者や入退院送迎時にのみに適応され、学会利用による割引はございません。あらかじめご承知おきください。

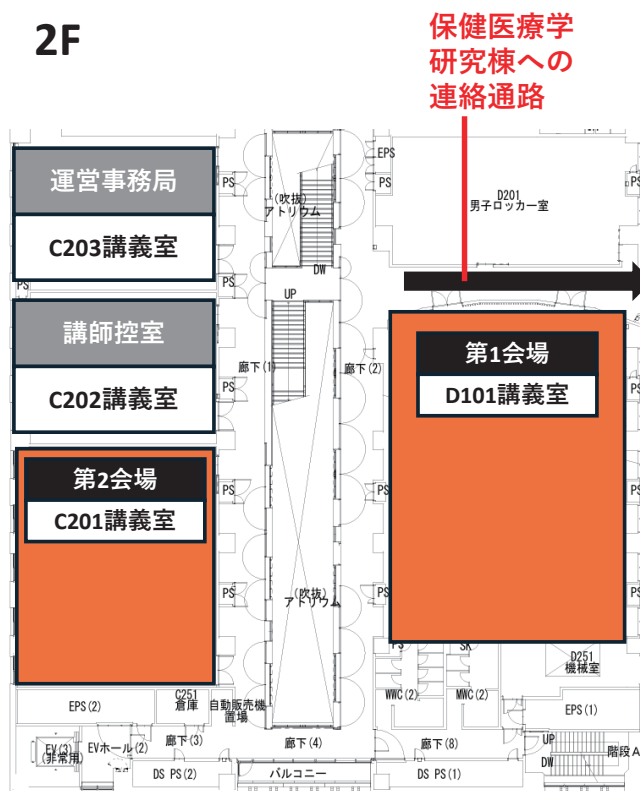
会場見取り図

教育研究棟

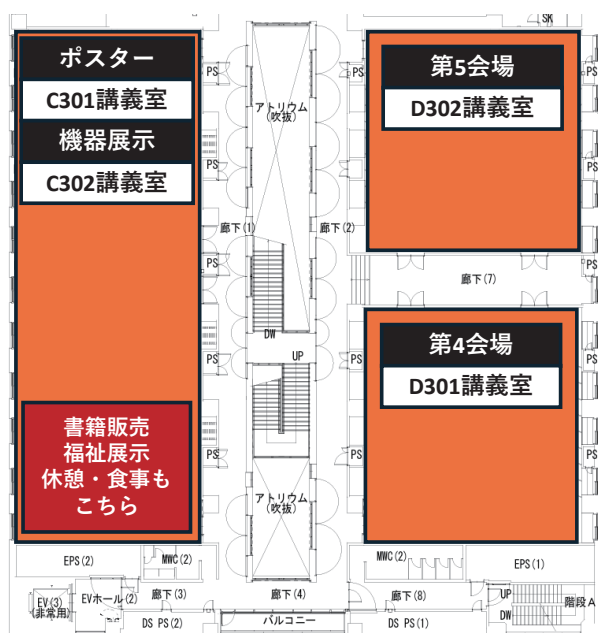
1F



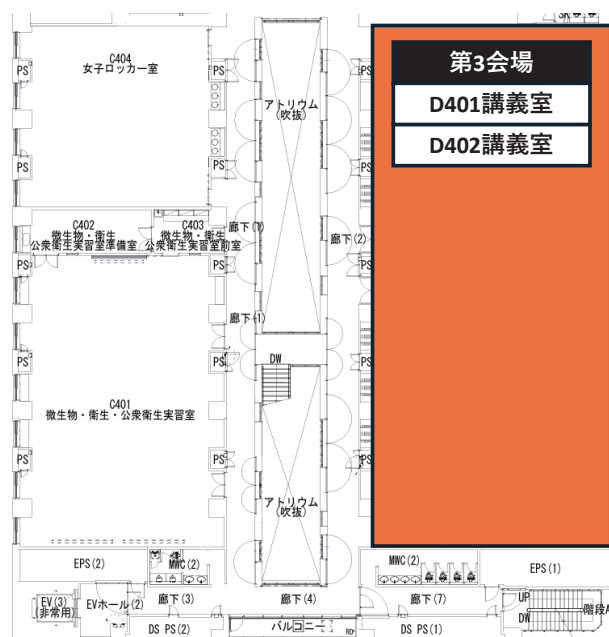
2F



3F



4F

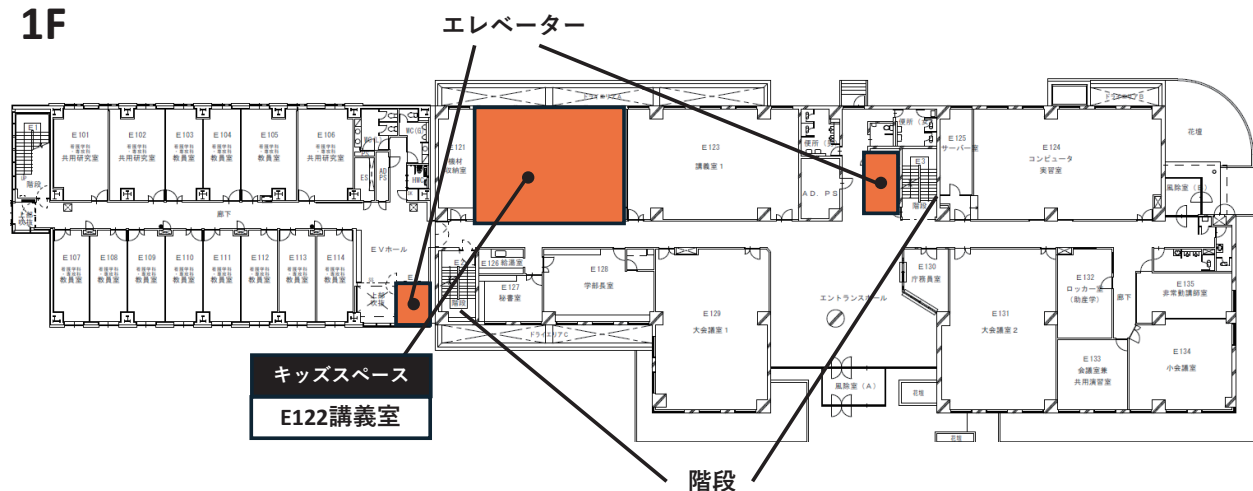


会場見取り図

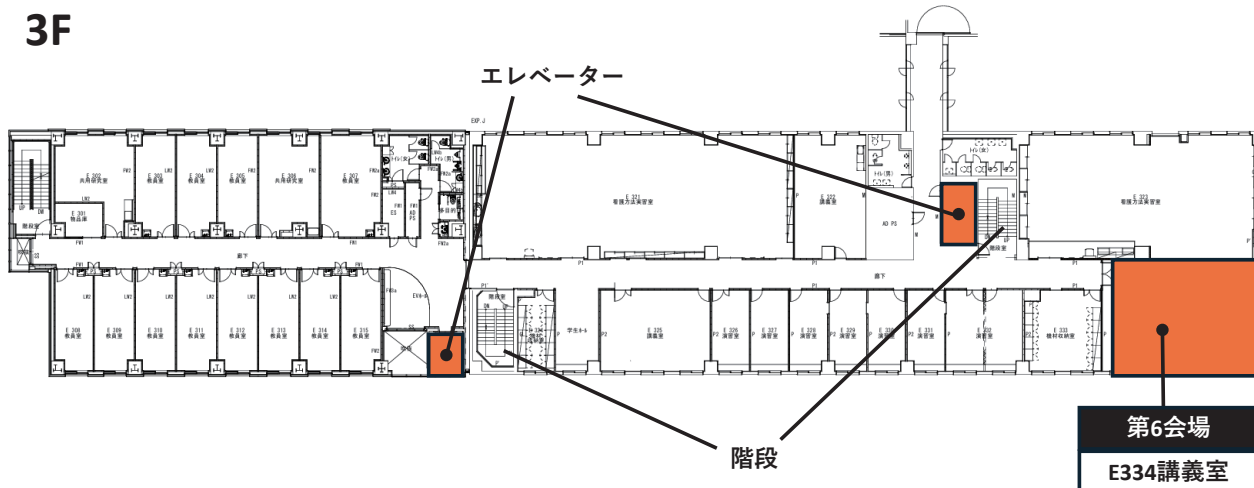
保健医療学研究棟

教育研究棟2階の連絡通路から保健医療学研究棟に移動し、
エレベーターまたは階段にておこしください

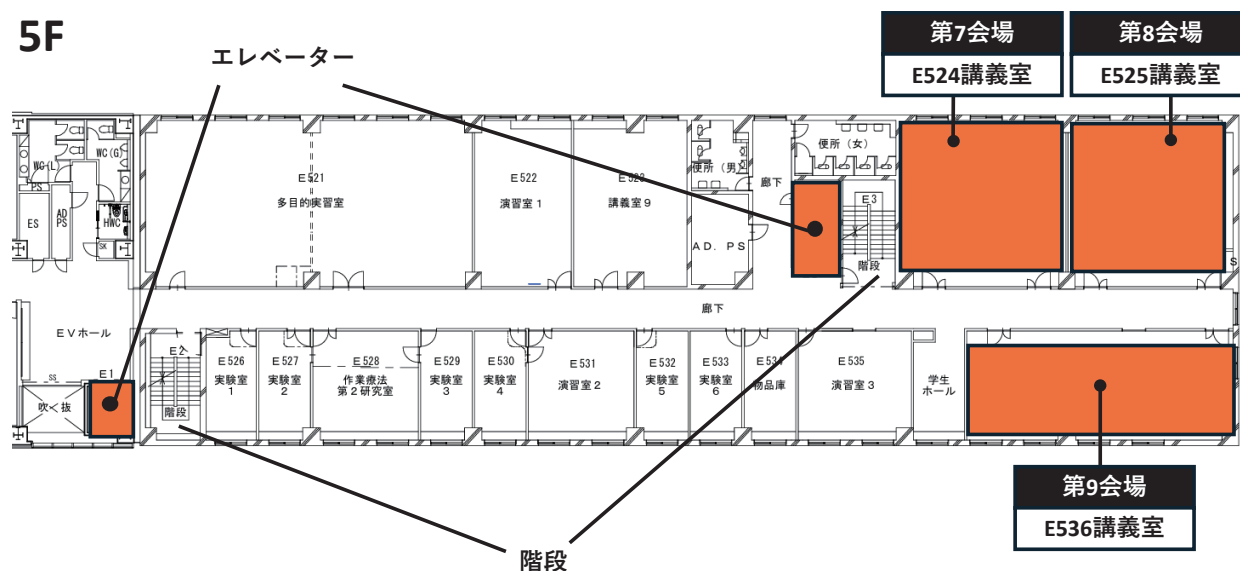
1F



3F



5F



プログラム表

1日目 2025年10月25日 土曜日

教育研究棟						
	1階／2階 D101 第1会場	2階 C201 第2会場	第2会場4階 D401／402 第3会場	3階 D301 第4会場	3階 D302 第5会場	3階 C301／302 ポスター／展示
09:00						
09:30						
10:00					演者： 嘉数栄司 横山和樹 永田真一 辻陽子 増田真美 菊地拓実 滝吉菜穂子 菅原明美 小林里美 池谷政直 田原智昭 船越明子 一木崇弘 松田陽子 杉本寛治 原拓也 林正喜 佐々木理一郎 古家奈苗	ポスター 貼付 ※2日目の 発表者も 含め全員貼付して ください
10:30		開会式				
11:00		大会長企画 ともにつくる（共創：co-creation）精神障害者リハビリテーションの未来 ー浦河発の取り組みとともにー 座長・講師：池田望 講師：川村敏明、高田大志 ※第2会場・第3会場はサテライト配信				
11:30						
12:00		特別講演 共同創造から共同妄想へ： VR／AR技術を用いた幻聴・幻視当事者研究の実践 講師：熊谷晋一郎、畑田裕二 座長：橋本菊次郎 ※第2会場・第3会場はサテライト配信				展示・閲覧
12:30						
13:00						ポスター発表 発表番号が 奇数の演題
13:30						展示・閲覧
14:00	大会企画シンポジウム 地域における精神医療・ リハビリテーションの 課題と取り組み ー北海道の実情・実践から 考えるー 座長：石井貴男 永井順子 シンポジスト： 中村慎一、佐々木寛 中島邦宏	研修セミナー1 コプロダクション （共同創造）と リカバリー・カレッジ 座長：岩崎香 司会：彼谷哲志 坂本明子 話題提供：黒瀬勝宏 宮本有紀		口述発表1 支援① 演者： 唯なおみ、池田晶代 國田幸治、小竹玲子 川村明代、中村恭子 座長：森元隆文	口述発表2 就労① 演者： 渡部誠一、建石幸子 太刀川康知、平田眞弓 大川浩子 座長：橋本達志	
14:30						
15:00						
15:30	JNPFシンポジウム ヒューマンライツを 尊重する 精神医療の在り方とは 登壇： 後藤雅博、中岡恵理 伊藤順一郎 稲垣麻里子 佐藤奈緒、根深昌博 伊藤さえ子、木村尚美 西内絵里沙、賛川信幸	研修セミナー2 ともに創る、 ピアサポートストーリーー 座長：矢部滋也 シンポジスト： 小笠原啓人 川村亜季 鷲見望	教育講演1 触法精神障害者の未来を 「ともにつくる」 ー総力戦でリカバリーを 追及するー 講師：賀古勇輝 座長：橋本恵理	口述発表3 入院と地域① 演者： 保科輝之、渡邊宏周 松下祐佳、渡邊史朗 平山晶子、奈良麻結 座長：岡田宏基	口述発表4 就労② 演者： 山田彩加、佐藤孝洋 中原さとみ、大石甲 熊倉一恵、米地真奈美 座長：大川浩子	
16:00						
16:30						
17:00						
17:30	野中賞・IPPO賞 授賞式・講演		教育講演2 当事者・家族・地域のつながり： 家族まるごとリカバリーを目指す ーメリデン版訪問家族支援という手立てー 講師：吉野賀寿美 座長：菅原悦子 酒井一浩			
18:00						

プログラム表

1日目 2025年10月25日 土曜日

保健医療学研究棟				
	3階 E334 第6会場	5階 E524 第7会場	5階 E525 第8会場	5階 E536 第9会場
09:00				
09:30				
10:00				
10:30				
11:00				
11:30	自主企画1 どこに向かう!? 精神科デイケア! ーこれからの精神科 デイケアに求められる 役割を考えるー	自主企画2 ピアサポーターが行う 『RECOVERY』 ワークショップ ～2025年～	自主企画3 事例からみえてくる 医療×地域連携 「精神障害者にも対応した 地域包括ケアシステム」 「重層的支援 体制整備事業」を 考える	自主企画4 シリーズ： 長期在院者の 退院支援各論① 「対話」で拡げる 長期在院者 支援のこれから
12:00				
12:30	企画： 木村尚美 他	企画： 岡崎幸治 他	企画： 西内絵里沙 他	企画： 土田正一郎 他
13:00				
13:30				
14:00	自主企画5 みんなに関係のある 多様性のはなし ーLGBTQの視点から 精神障害を考えるー	自主企画6 「メンタルヘルスの まちづくり」 ～利他性とダイアログに ついて考える～	自主企画7 子ども・若者 当事者研究	自主企画8 「入院者訪問支援事業」を 考える① ー第三者によるかわりか もたらず可能性ー
14:30	企画： 松本武士 他	企画： 須藤康宏 他	企画： 向谷地悦子 他	企画： 久永文恵 他
15:00				
15:30	自主企画9 「助けて」が 言えない 社会に風穴を 開けるために、 支援者ができること	自主企画10 事業所を安心できる居場所に！ 過ごすみんなで取り組む 施設環境改善プログラム ～キレイになるだけじゃないっせ～	自主企画11 精神科病院における 相談窓口の実態から 見えてきたこと ー虐待を防ぐ “何か” を 一緒に探しませんか？ー	自主企画12 立ち止まって支援を 深める至福の90分 ～診察室で考えている こと（仮）拡大版Ⅱ～
16:00				
16:30	企画： 原敬 他	企画： 出口里美 他	企画： 福田久仁子 他	企画： 土田正一郎 他
17:00				
17:30				
18:00				

プログラム表

2日目 2025年10月26日 日曜日

教育研究棟					
1階／2階 D101 第1会場	2階 C201 第2会場	第2会場4階 D401／402 第3会場	3階 D301 第4会場	3階 D302 第5会場	3階 C301／302 ポスター／展示
09:00					
09:30					
10:00	学会企画シンポジウム 10年後の精リハ学会に 向けて 登壇： 内野俊郎、樽谷精一郎 伊藤順一郎、彼谷哲志 下平美智代、山口創生 吉田光爾	SST普及協会シンポジウム 地域における精神医療・ リハビリテーションの 課題と取り組み ー北海道の実情・実践から 考えるー 講師：向谷地生良 登壇者： 浦河べてるの家メンバー 安西信雄、上村嵯知 座長：鈴木和	口述発表5 支援② 演者： 前川貴哉、西内絵里沙 千葉理恵、敦賀准平 近藤健志 座長：澤田いづみ	口述発表6 リカバリー 演者： 前澤由梨、沓名一朗 河本耕一、橋詰幸輝 北山彩乃、西田祐紀 座長：横山和樹	展示・閲覧
10:30					
11:00					
11:30	教育講演3 個性を大切に就労支援 ーIPS実践を通して見た 障害者就労の過去と今からー 講師：本多俊紀 猪田正憲 座長：澤田恭一	研修セミナー4 精神科リハビリ テーション領域に おける研究活動への 取り組み方を考える 登壇： 安西信雄、佐藤さやか 松田康裕、松長麻美 小野彩香、千葉理恵	口述発表7 入院と地域② 演者： 今井佳、橋爪卓 足立千啓、齊藤健 望永和美、田辺有理子 座長：渡部誠一	口述発表8 ピア・権利擁護 演者： 小笠原啓人、佐々木理恵 山口智絵、片山理 岡崎幸治 座長：村本好孝	
12:00					
12:30					
13:00					ポスター発表 発表番号が 偶数の演題
13:30	市民公開トークイベント みんなで考える 「どうすればよかったか？」 司会：池田望 ゲストスピーカー：藤野知明 ※第2会場はサテライト配信				展示・閲覧
14:00					
14:30					
15:00					撤去
15:30	開会式				
16:00					
16:30					
17:00					
17:30					
18:00					

プログラム表

2日目 2025年10月26日 日曜日

保健医療学研究棟				
3階 E334 第6会場		5階 E524 第7会場		5階 E525 第8会場
5階 E536 第9会場				
09:00				
09:30				
10:00	自主企画13 ACTとピアスタッフの 協働創造 ～当事者性と専門性の交差点に生まれる支援の可能性～	自主企画14 はじめよう！ 続けよう！ IMR	自主企画15 プレイバック シアターの世界へようこそ 心の風景を見てみましょう	自主企画16 IPSってどう思う？ ～IPS型就労支援の実際とこれからについて語ろう～
10:30	企画： 須田竜太 他	企画： 池田直矢 他	企画： 奥田かおり 他	企画： 船本修平 他
11:00				
11:30	自主企画17 いかに見立て、手立てとしての 選択肢を増やすか ～家族まると支援の実際と可能性～	自主企画18 「自分自身で、ともに」 ーべてるの家の当事者研究	自主企画19 “やってみようリカバリーストーリー” 当事者のリカバリーストーリーを 聞いた後、自分自身の リカバリーストーリーを考える	自主企画20 IFLカンファレンス 2025 ～精神障害者フットサルリーグの 意義と価値～
12:00	企画： 小松容子 他	企画： 池松麻穂 他	企画： 斎藤寛 他	企画： 井上誠士郎 他
12:30				
13:00				
13:30	自主企画21 アーティストとソーシャルワーカーに よるアートレクリエーション共創実践 ～プログラムの体験と ディスカッション～	自主企画22 ともに探そう！ パーソナル・メディスン ー自分の内なる力に触れるー	自主企画23 精神障害者の 「心身の健康を育てる包括的な 体験」支援 気もちよく生きるために =健康寿命の価値は無限大(∞)=	自主企画24 共に歩む支援のかたち、 相互理解に向けて。 ～それぞれの「苦勞の当事者」が 語り合うワークショップ～
14:00	企画： 近藤健志 他	企画： 坂本明子 他	企画： 藤木久男 他	企画： 若月淑子 他
14:30				
15:00				
15:30				
16:00				
16:30				
17:00				
17:30				
18:00				

プログラム一覧

1日目 10月25日 (土)

開会式

時間 10:00~10:30

会場 第1・第2・第3会場 合同
D101 / C201 / D401・402

大会長企画

時間 10:30~11:30

会場 第1・第2・第3会場 合同
D101 / C201 / D401・402

ともにつくる（共創：co-creation）精神障害者リハビリテーションの未来
— 浦河発の取り組みとともに —

座長・講師 池田 望（札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科）

講師 川村 敏明（浦河ひがし町診療所）

高田 大志（浦河ひがし町診療所）

特別講演

時間 11:45~12:45

会場 第1・第2・第3会場 合同
D101 / C201 / D401・402

共同創造から共同妄想へ：VR/AR技術を用いた幻聴・幻視当事者研究の実践

座長 橋本菊次郎（北海道医療大学 看護福祉学部 福祉マネジメント学科）

講師 熊谷晋一郎（東京大学 先端科学技術研究センター）

畑田 裕二（東京大学大学院 情報学環）

大会企画シンポジウム

時間 13:30~15:00

会場 【第1会場】 D101

地域における精神医療・リハビリテーションの課題と取り組み
— 北海道の実情・実践から考える —

座長 石井 貴男（札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科）

永井 順子（北星学園大学 社会福祉学部 社会福祉学科）

シンポジスト 中村 慎一（株式会社 north-ACT）

佐々木 寛（釧路市障害者虐待防止センター／釧路圏域精神障害地域生活支援センター）

中島 邦宏（ぽかぽかハートのつどい）

心理教育・家族教室ネットワーク（JNPF） 企画シンポジウム

時間 15:15~16:45

会場 【第1会場】 D101

「ヒューマンライツを尊重する精神医療の在り方とは」

司会・コーディネーター 後藤 雅博（こころのクリニック ウィズ）

基調講演 伊藤順一郎（メンタルヘルス診療所 しっぽふぁーれ）

リフレクション 中岡 恵理（希望ヶ丘ホスピタル）

稲垣麻里子（北海道ピアサポート協会）

佐藤 奈緒（北海道ピアサポート協会）

根深 昌博（北海道精神障害者家族連合会）

伊藤さえ子（北海道精神障害者家族連合会）

木村 尚美（ひだクリニック）

西内絵里沙（国立精神・神経医療研究センター）

賛川 信幸（日本社会事業大学）

野中賞・IPPO賞 授賞式・講演

時間 17:00~18:00

会場 【第1会場】 D101

研修セミナー1

時間 13:30～15:00

会場 【第2会場】 D201

Co-Designプロジェクト企画 研修セミナー
コ・プロダクション（共同創造）とリカバリーカレッジ

座長 岩崎 香（早稲田大学）

講師 彼谷 哲志（特定非営利活動法人 あすなろ）
坂本 明子（久留米大学）

話題提供 黒瀬 勝宏（リカバリーカレッジKOBÉ）
宮本 有紀（リカバリーカレッジおおた／東京大学）

研修セミナー2

時間 15:15～16:45

会場 【第2会場】 D201

ともに創る、ピアサポートストーリー

座長 矢部 滋也（一般社団法人 北海道ピアサポート協会）

シンポジスト 小笠原啓人（一般社団法人 北海道ピアサポート協会／自立訓練（生活訓練）PEER+design）
川村 亜季（株式会社フォアヴェルツ／就労移行支援事業所ディーキャリア札幌オフィス）
鷺見 望（自助グループ かたるべ）

教育講演1

時間 15:15～16:45

会場 【第3会場】 D401・402

触法精神障害者の未来を「ともにつくる」
～総力戦でリカバリーを追及する～

座長 橋本 恵理（札幌医科大学 医学部 神経精神医学講座）

講師 賀古 勇輝（北海道大学病院附属司法精神医療センター）

教育講演2

時間 17:00～18:00

会場 【第3会場】 D401・402

当事者・家族・支援者のコラボレーティブワーク
～家族まるごとのリカバリーを目指すメリデン版訪問家族支援という手立て～

座長 酒井 一浩（医療法人社団 博仁会 こころのリカバリークリニック十勝）

菅原 悦子（特定非営利活動法人 札幌市精神障害者家族連合会）

講師 吉野賀寿美（医療法人社団 五稜会病院）

一般演題（口述）※各会場の発表順に掲載

●口述発表1 支援①

時間 13:30～15:00

会場 【第4会場】 D301

座長 森元 隆文（札幌医科大学）

O-1-01 服役経験のある薬物依存症女性への当事者研究とインタビュー調査からの考察
～女子刑務所からダルク女性ハウスへ～
唯 なおみ（東京大学）

O-1-02 精神科病棟へのMCTの導入とその有用性について
池田 晶代（医療法人和同会 吉南病院）

O-1-05 医療観察法病棟におけるFitbitを用いたセルフモニタリング支援の実践
國田 幸治（北海道大学病院附属司法精神医療センター）

O-1-04 デイケアでの睡眠プログラムの実践報告
小竹 玲子（北大通こころのクリニック）

- 1-03 **メタ認知トレーニングにより認知バイアスに基づく行動において改善傾向がみられた
自閉スペクトラム症の事例**
川村 明代 (公益財団法人 浅香山病院)

- 1-06 **慢性期統合失調症患者の歩行能力向上に有効なダンス動作の検討
：歩行ダンスと走行ダンスの比較**
中村 恭子 (順天堂大学 スポーツ健康科学部)

●口述発表2 就労①

時間 13:30～15:00

会場 【第5会場】 D302

座長 橋本 達志 (日本医療大学)

- 2-02 **リワークプログラムにおける就労転帰の考察：探索的検討**
渡部 誠一 (医療法人慈全会 那須高原病院)
- 2-03 **働く精神障害者のウェルビーイングと地域参加日数との関連：IPS型就労支援における横断研究**
建石 幸子 (一般社団法人ルンアルン ルンアルン1)
- 2-04 **療養生活継続支援加算導入した62名について～退院後を見据えた就労支援の効果と検証～**
太刀川康知 (社会医療法人 崇徳会 田宮病院)
- 2-01 **新しい中間的就労作りを目指して**
平田 眞弓 (特定非営利活動法人 楽しいモグラクラブ)
- 2-05 **就労支援機関管理者が感じる人材育成の課題とバーンアウト傾向
—テキストマイニングを用いたインタビューの分析—**
大川 浩子 (北海道文教大学)

●口述発表3 入院と地域①

時間 15:15～16:45

会場 【第4会場】 D301

座長 岡田 宏基 (北海道大学)

- 3-01 **活動報告：ものづくりから、これからの自分の生き方を考える**
保科 輝之 (医療法人すこやか ほりこし心身クリニック)
- 3-02 **児童生徒による学校とデイケアの風土評価
—安心できる環境作りに必要な要素についての考察—**
渡邊 宏周 (医療法人すこやか ほりこし心身クリニック)
- 3-03 **児童思春期病棟に長期入院をしている子どもへの退院支援に関する研究
～病棟精神保健福祉士へのインタビュー調査から～**
松下 祐佳 (横浜カメリアホスピタル)
- 3-04 **居住支援における基幹相談支援センターと居住支援協議会の協働に関する実践報告と今後の展望**
渡邊 史朗 (社会福祉法人 光友会 いそご地域活動ホームいぶき)
- 3-05 **精神保健福祉センターでの地域移行・地域定着支援事業の関係機関との連携
～誰もが安心して暮らせる地域を目指して～**
平山 晶子 (岡山市こころの健康センター)
- 3-06 **精神科入院体験の認識尺度 (Admission Experience Survey : AES) の
翻訳と妥当性・信頼性の検証**
奈良 麻結 (国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所)

●口述発表4 就労②

時間 15:15～16:45

会場 【第5会場】 D302

座長 大川 浩子 (北海道文教大学)

- O-4-05 **NO TROUBLE, NO LIFE.**
～福祉の場で支援を受け、福祉の場で働く私が内側から障害者の雇用を見つめて～
山田 彩加 (株式会社MARS)
- O-4-01 **精神科デイケアにおけるグループDIY活動の実践～就労・復職準備としての可能性～**
佐藤 孝洋 (医療法人すこやか ほりこし心身クリニック)
- O-4-06 **2025年IPS国際学会ナッシュビル大会へ参加して得られたこと**
中原さとみ (社会福祉法人 桜ヶ丘社会事業協会 桜ヶ丘記念病院)
- O-4-02 **職場における情報共有の課題に関する研究**
—精神障害者における業務指示の伝達や把握に関する困難について—
大石 甲 (障害者職業総合センター 研究部門)
- O-4-03 **“捉え方”の共有によって孤立・孤独を乗り越える復職支援 ～A氏との協働を通して～**
熊倉 一恵 (就労移行支援事業所 コンポステラ)
- O-4-04 **見失った希望を再び取り戻し行動していったAさん**
米地真奈美 (NPO法人 コミュネット楽創 就労移行支援事業所ホワイトストーン)

一般演題 (ポスター)

ポスター番号 奇数の方 時間 12:45～13:15

会場 【ポスター会場】 C301・302

フリーディスカッション

- P-01 **刑事司法領域における認知機能維持・向上プログラムの取り組み —作業療法士による実践報告—**
嘉数 栄司 (沖縄リハビリテーション福祉学院)
- P-03 **同様の病気や障害をもつ人への自己開示量がリカバリーに及ぼす影響**
—地域生活を送る精神疾患をもつ人を対象とした縦断的調査—
横山 和樹 (北海道公立大学法人 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科)
- P-05 **余暇活動に着目した地域参加促進のための介入効果の検討**
永田 真一 (筑波大学)
- P-07 **精神科訪問看護における支援技術の向上のしづらさの背景にある課題**
—訪問看護師へのインタビュー調査より—
辻 陽子 (関西福祉科学大学)
- P-09 **展示での社会参加活動、グループミーティングを通じた利用者の意識の変化**
増田 真美 (社会福祉法人ひらいるミナル アクティビティサポートセンターゆい)
- P-11 **復職支援における森田療法の役割と課題**
菊地 拓実 (医療法人資生会 千歳病院)
- P-13 **精神科長期入院患者の退院支援における地域移行支援のあり方**
—新たな長期入院者を生まない体制づくり—
滝古菜穂子 (医療法人積愛会 横浜舞岡病院)
- P-15 **精神保健福祉士における支援観の問い直し—アドボケートとの視点交錯を通して—**
菅原 明美 (美作大学 生活科学部 社会福祉学科)
- P-17 **自分らしく暮らしていける地域づくり**
～精神障がい者当事者団体ぼかぼかハートのつどいの活動報告～
小林 里美 (ぼかぼかハートのつどい)

- P-19 **精神科訪問看護利用者における『できる』と『している』のギャップ
：社会機能との関連と阻害要因の分析**
池谷 政直 (名古屋葵大学)
- P-21 **精神障害者支援・高齢者支援・診療所機能を併せ持つ法人における理念と
育成施策の再構築に向けた実践**
田原 智昭 (公益財団法人横浜市総合保健医療財団)
- P-23 **社会的孤立を経験した人に対するCompassion Focused Therapyを参考にした
グループアプローチ「つながるコンパッションCAFÉ」のプログラム評価**
船越 明子 (神戸市看護大学)
- P-25 **障害者ピアサポート研修の実施状況と制度的課題の全国調査**
一木 崇弘 (熊本大学 大学院生命科学研究部 神経精神医学講座)
- P-27 **統合失調症をもつ人の家族のPTG (Posttraumatic Growth) と
社会文化的・認知的要因との関連**
松田 陽子 (四日市看護医療大学 看護医療学部 看護学科)
- P-29 **小学校における「話す・聴く」の体験を目指した対話のSSTの実践報告**
杉本 寛治 (デコボコベース株式会社)
- P-31 **多機関多職種で継続的に取組んだ「ピア☆カフェ」の実践について
～今後のさらなる発展を目指したそれぞれの立場からの考察～**
原 拓也 (特定医療法人旭会 和歌浦病院)
- P-33 **NEARによって認知機能の改善がみられた治療抵抗性統合失調症の一例**
林 正喜 (秋田大学医学部附属病院 リハビリテーション部)
- P-35 **知的障害者の年齢および知的能力と就職レディネスの関連
—更生相談所の相談者データに基づく横断研究—**
佐々木理一郎 (北海道立心身障害者総合相談所 医務課)
- P-37 **千歳病院当事者研究の取り組みと成果について**
古家 奈苗 (医療法人資生会 千歳病院)

自主企画プログラム

●自主企画1 時間 11:15～12:45 会場 【第6会場】 E334

- S-01 **どこに向かう!? 精神科デイケア！—これからの精神科デイケアに求められる役割を考える—**
企画 木村 尚美 (医療法人社団 宙麦会 ひだクリニックお台場)

●自主企画2 時間 11:15～12:45 会場 【第7会場】 E524

- S-02 **ピアサポーターが行う『RECOVERY』ワークショップ～2025年～**
企画 岡崎 幸治 (リカバリー福島当事者会)

●自主企画3 時間 11:15～12:45 会場 【第7会場】 E524

- S-03 **事例からみえてくる医療×地域連携
「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」「重層的支援体制整備事業」を考える**
企画 西内絵里沙 (国立精神・神経医療研究センター/所沢市アウトリーチ支援チーム)

●自主企画4 時間 11:15～12:45 会場 【第7会場】 E524

- S-04 **シリーズ：長期在院者の退院支援各論①
「対話」で拡げる長期在院者支援のこれから**
企画 土田正一郎 (JA北海道厚生連 倶知安厚生病院)

●自主企画5 時間 13:30～15:00 会場 【第6会場】 E334

S-05 みんなに関係のある多様性のはなし —LGBTQの視点から精神障害を考える—

企画 松本 武士 (にじいろリハネット)

●自主企画6 時間 13:30～15:00 会場 【第7会場】 E524

S-06 「メンタルヘルスのまちづくり」～利他性とダイアログについて考える～

企画 須藤 康宏 (医療法人社団 メンタルクリニックなごみ)

●自主企画7 時間 13:30～15:00 会場 【第7会場】 E524

S-07 子ども・若者当事者研究

企画 向谷地悦子 (社会福祉法人 浦河べてるの家)

●自主企画8 時間 13:30～15:00 会場 【第7会場】 E524

S-08 「入院者訪問支援事業」を考える
—第三者によるかわりがもたらす可能性とその未来

企画 久永 文恵 (国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所)

●自主企画9 時間 15:15～16:45 会場 【第6会場】 E334

S-09 「助けて」が言えない社会に風穴を開けるために、支援者ができること

企画 原 敬 (社会医療法人 清和会 西川病院)

●自主企画10 時間 15:15～16:45 会場 【第7会場】 E524

S-10 事業所を安心できる居場所に！過ごすみんなで取り組む施設環境改善プログラム
～キレイになるだけじゃないませ～

企画 出口 里美 (社会福祉法人 みつわ会)

●自主企画11 時間 15:15～16:45 会場 【第7会場】 E524

S-11 精神科病院における相談窓口の実態から見えてきたこと
—虐待を防ぐ“何か”を一緒に探しませんか？—

企画 福田久仁子 (福山平成大学 看護学部)

●自主企画12 時間 15:15～16:45 会場 【第7会場】 E524

S-12 立ち止まって支援を深める至福の90分 ～診察室で考えていること（仮）拡大版Ⅱ～

企画 土田正一郎 (JA北海道厚生連 倶知安厚生病院)

2日目 10月26日(日)

学会企画シンポジウム

時間 09:30~11:00

会場 【第1会場】D101

『10年後の精リハ学会に向けて』

座長 内野 俊郎(久留米大学病院 臨床研修センター/久留米大学医学部 神経精神医学講座)

樽谷精一郎(大阪精神医学研究所 新阿武山病院)

シンポジスト 伊藤順一郎(メンタルヘルス診療所 しっぽふぁーれ)

彼谷 哲志(特定非営利活動法人 あすなろ)

下平美智代(一般社団法人 COMHCa)

山口 創生(国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部)

吉田 光爾(東洋大学大学院 ライフデザイン学研究科/東洋大学 福祉社会デザイン学部 社会福祉学科)

SST普及協会シンポジウム

時間 09:30~11:00

会場 【第3会場】D401・402

浦河べてるから学ぶ、当事者研究・リカバリーとSSTの役割

講師 向谷地生良(社会福祉法人 浦河べてるの家)

座談会参加者 浦河べてるの家 メンバーのみなさま

安西 信雄(帝京平成大学)

上村 嵯知(札幌市立平岸中学校のぞみ分校)

座長 鈴木 和(北海道医療大学 看護福祉学部 精神保健福祉学講座)

市民公開講座

時間 13:15~14:45

会場 第1・第2会場 合同
D101 / C201

市民公開トークイベント：みんなで考える「どうすればよかったか？」

司会 池田 望(札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科)

ゲストスピーカー 藤野 知明(動画工房ぞうしま)

教育講演3

時間 11:15~12:15

会場 【第1会場】D101

個別性を大切にする就労支援 ~IPS実践を通して見た障害者就労の過去と今から~

座長 澤田 恭一(一般社団法人 FLaT)

講師 本多 俊紀(NPO法人 コミュネット楽創)

猪田 正憲(元IPSユーザー)

研修セミナー3

時間 09:30~11:00

会場 【第2会場】C201

ひきこもり経験を有するピアスタッフによる多機能型若者実践活動研究 ー在宅活動・居場所活動・社会参画活動に着目してー

座長 船越 明子(公立大学法人神戸市看護大学/日本精神障害者リハビリテーション学会研修委員会委員)

講師 田中 敦(特定非営利活動法人 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク 理事長)

研修セミナー4

時間 11:15~12:45

会場 【第3会場】D401・402

精神科リハビリテーション領域における研究活動への取り組み方を考える

座長 安西 信雄(帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科)

佐藤さやか(国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所)

シンポジスト 松田 康裕(大阪急性期・総合医療センター 精神科)

松長 麻美(東京科学大学大学院 保健衛生学研究科)

小野 彩香(認定NPO法人 Switch)

指定討論 千葉 理恵(京都大学大学院 医学研究科)

一般演題（口述）※各会場の発表順に掲載

●口述発表5 支援②

時間 09:30～11:00

会場 【第4会場】D301

座長 澤田いずみ（札幌医科大学）

O-5-03 発達障害専門プログラムと訪問看護による対人支援の実践と評価

前川 貴哉（医療法人社団 楽優会 札幌なかまの杜クリニック）

O-5-02 自治体における家族支援ー家族にも対応した包括的ケースマネジメント実践ー

西内絵里沙（国立精神・神経医療センター 所沢市アウトリーチ支援チーム）

O-5-01 精神疾患をもつ人の家族を対象とした、
ベネフィット・ファインディングを促進するための介入：スコーピング・レビュー

千葉 理恵（京都大学）

O-5-04 メタバース×グループワーク実践

～700名との対話と発達障害を抱える大学生の事例から見えたこと～

敦賀 准平（医療法人社団 立青会 なるかわ病院）

O-5-05 アーティストとソーシャルワーカーによるアートレクリエーション共創実践報告
～共創における課題認識と対話の必要性～

近藤 健志（株式会社エールアライブ）

●口述発表6 リカバリー

時間 09:30～11:00

会場 【第5会場】D302

座長 横山 和樹（札幌医科大学）

O-6-02 慢性期統合失調症に対するオープンダイアログに基づいた対話実践の有効性
ー尊厳の尊重とリカバリーの視点からー

前澤 由梨（島根大学大学院 人間社会科学研究科）

O-6-04 精神科訪問看護利用者の生活史に関する語りとリカバリー関連尺度との関係
：BERTopicを用いた自然言語処理の利用

杵名 一朗（星城大学リハビリテーション学部 作業療法学専攻）

O-6-01 精神科病院における孤独・孤立対策の実践報告
～「つながりをつくる3ステップ」による回復支援の一事例～

河本 耕一（社会医療法人仁厚会 医療福祉センター倉吉病院）

O-6-05 変化のステージによるアルコール依存症からの回復過程に関する研究

橋詰 幸輝（立命館大学大学院 博士課程後期課程）

O-6-03 精神障害を抱える人々が集団プログラムを通して自己開示を経験した際の感情体験

北山 彩乃（医療法人糸逢会 ともこころのクリニック）

O-6-06 精神障害者の「気づき」の概念分析

西田 祐紀（三重大学 医学部 医学・看護学教育センター）

●口述発表7 入院と地域②

時間 11:15~12:45

会場 【第4会場】 D301

座長 渡部 誠一 (医療法人慈全会那須高原病院)

- O-7-01 東京都立松沢病院におけるアウトリーチ支援の現状と課題
今井 佳 (地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立松沢病院 患者・地域サポートセンター アウトリーチチーム)
- O-7-02 訪問看護における作業療法士と精神保健福祉士の協働支援～地域生活の定着に向けた一事例～
橋爪 卓 (社会医療法人 崇徳会 田宮病院)
- O-7-05 世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」
～いわゆる「ゴミ屋敷」事例から見えてくる課題と求められる支援～
足立 千啓 (メルクマールせたがや/世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」)
- O-7-06 地域の障害福祉サービス事業所と更生保護関係団体との協働
齊藤 健 (社会福祉法人 豊芯会)
- O-7-03 グループホームから地域生活へ
自立生活援助事業所「アイビー」の実践報告
望永 和美 (社会福祉法人 SKYかわさき 自立生活援助事業所アイビー)
- O-7-04 横浜市における精神障害者対応グループホームの現況
田辺有理子 (横浜市立大学 医学部 看護学科)

●口述発表8 ピア・権利擁護

時間 11:15~12:45

会場 【第5会場】 D302

座長 村本 好孝 (株式会社ここから)

- O-8-01 障害福祉サービスにおけるピアサポーターとの協働に関する意見
—ピアサポーターの雇用経験の有無による比較, 内容分析—
小笠原啓人 (一般社団法人 北海道ピアサポート協会)
- O-8-02 東京大学における精神保健領域ピアサポートワーカー研修の実践報告
佐々木理恵 (東京大学 医学系研究科 医学のダイバーシティ教育研究センター)
- O-8-03 ピアサポーターとの協働が地域移行支援にもたらす効果
—精神保健センターにおける退院にむけた地域移行支援の事例—
山口 智絵 (岡山市こころの健康センター)
- O-8-04 私たち「ピアサポーターがリカバリーを伝える会」と
「SAMHSAのRECOVERY」ワークショップ
片山 理 (川口市精神障害者の会 よつば)
- O-8-05 社会的弱者に対する差別・偏見の歴史から、これからの権利擁護およびスティグマを考察する
岡崎 幸治 (リカバリー福島当事者会)

一般演題 (ポスター) ポスター番号 偶数の方 時間 12:45~13:15

会場 【ポスター会場】 C301・302

フリーディスカッション

- P-02 重度・持続性精神疾患のある個人におけるリカバリーと生活の困難さ
および作業機能障害の縦断的要因構造の検討
川口 敬之 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)

- P-04 **旭川市における当事者・非当事者協働型アディクション支援モデル「明日の会」の実践報告**
五所 卓子 (旭川市立大学 保健福祉学部 コミュニティ福祉学科)
- P-06 **精神障害者が農業分野の福祉的就労における主体性を獲得する雇用環境の整備
～サッカーのポジショニングとBPSモデルの活用～**
黒瀬 真一 (杜の家なかみち)
- P-08 **ピアスタッフと専門職スタッフが「同僚」となり協働に向かう過程 —TEAを用いて—**
早川紗耶香 (花園大学 社会福祉学部)
- P-10 **精神科急性期における個別作業療法 (OT) の臨床的意義
—集団OTへの段階的移行が奏功した2事例—**
小野寺佑麻 (秋田大学医学部附属病院)
- P-12 **精神科デイケアにおけるIPS型個別就労支援による就労継続期間と
離職後の再就職に関連する要因**
杉本圭以子 (大分県立看護科学大学 精神看護学研究室)
- P-14 **『オープンデイケア』を実施して ～デイケア利用者と登録メンバーの通所回数を増やす試み～**
赤司 英博 (久留米大学病院 精神科デイケアセンター)
- P-16 **デイケアメンバーの体力維持・向上への取り組み**
倉重 拓歩 (久留米大学病院 精神科デイケアセンター)
- P-18 **利用者主体型プログラムの主体性・自己効力感・コミュニケーションスキルへの影響
：ケースシリーズ研究**
水口 克信 (江別すずらん病院)
- P-20 **認知行動的アプローチを組み合わせせた通院集団精神療法プログラムの実践報告**
石田 哲也 (久留米大学 医学部神経精神医学講座)
- P-22 **ヤングケアラーを支える地域づくり
—精神保健福祉士らの質的分析による住民の考える子どもたちへのかかわりの一歩とは—**
片山優美子 (長野大学)
- P-24 **若年層プログラムの参加体験
～「あつまれ！からすやまの森」アンケート調査の質的分析から～**
松本 美並 (昭和医科大学烏山病院 リハビリテーション室)
- P-26 **若年世代の退院困難事例に対する支援過程に作業療法が寄与した一症例**
澁谷 卓 (医療法人耕仁会 札幌太田病院／札幌医科大学大学院 保健医療学研究科)
- P-28 **地域ネットワークを基盤とした多機関協働アウトリーチチームの活動と
評価指標・ガイドライン作成の試み**
瀧本 里香 (帝京平成大学 人文社会学部 人間文化学科)
- P-30 **BERTopicを用いた精神障害者のリカバリーに関する文献レビュー**
伊佐次光莉 (医療法人社団大和会 大内病院)
- P-32 **参加者の声から見えたD-MCTの効果について**
松井 孝至 (医療法人三幸会 第二北山病院)
- P-34 **二次医療圏における外来リハビリテーション提供体制と人口密度の関連**
小方 智広 (京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻)
- P-36 **統合失調症に対するIllness management and recovery (IMR) プログラムの
形態学的・機能的効果～MRI研究**
吉見 明香 (横浜市立大学附属市民総合医療センター)
- P-38 **地域で生活する統合失調症者のコロナ禍における福祉就労支援に関する研究**
倉成 由美 (聖マリア学院大学)

自主企画プログラム

●自主企画13

時間 09:30～11:00

会場 【第6会場】 E334

S-13 ACTとピアスタッフの協働創造 ～当事者性と専門性の交差点に生まれる支援の可能性～

企画 須田 竜太（一般社団法人 Q-ACT）

●自主企画14

時間 09:30～11:00

会場 【第7会場】 E524

S-14 はじめよう！続けよう！IMR

企画 池田 直矢（東京大学医学部附属病院 リハビリテーション部 精神科デイホスピタル）

●自主企画15

時間 09:30～11:00

会場 【第8会場】 E525

S-15 プレイバックシアターの世界へようこそ
心の風景を見てみましょう

企画 奥田かおり（北海道医療大学）

●自主企画16

時間 09:30～11:00

会場 【第9会場】 E536

S-16 IPSってどう思う？
～IPS型就労支援の実際とこれからについて語ろう～

企画 船本 修平（特定非営利活動法人 コミュネット楽創）

●自主企画17

時間 11:15～12:45

会場 【第6会場】 E334

S-17 いかに見立て、手立てとしての選択肢を増やすか ～家族まると支援の実践と可能性～

企画 小松 容子（宮城大学）

●自主企画18

時間 11:15～12:45

会場 【第7会場】 E524

S-18 「自分自身で、ともに」—— べてるの家の当事者研究

企画 池松 麻穂（社会福祉法人 浦河べてるの家）

●自主企画19

時間 11:15～12:45

会場 【第8会場】 E525

S-19 “やってみようリカバリーストーリー”
当事者のリカバリーストーリーを聞いた後、自分自身のリカバリーストーリーを考える

企画 斉藤 寛（医療法人社団 五稜会病院 デイケアセンター）

●自主企画20

時間 11:15～12:45

会場 【第9会場】 E536

S-20 IFLカンファレンス2025
～精神障害者フットサルリーグの意義と価値～

企画 井上誠士郎（北25条メンタルクリニックあいさに）

●自主企画21

時間 13:15～14:45

会場 【第6会場】 E334

S-21 アーティストとソーシャルワーカーによるアートレクリエーション共創実践

企画 近藤 健志（株式会社エールアライブ）

●自主企画22

時間 13:15～14:45

会場 【第7会場】 E524

S-22 とともに探そう！パーソナル・メディスン—自分の内なる力に触れる—

企画 坂本 明子（久留米大学）

●自主企画23

時間 13:15~14:45

会場 【第8会場】 E525

- S-23 精神障害者の「心身の健康を育てる包括的な体験」支援
気もちよく生きるために＝健康寿命の価値は無限大（∞）＝

企画 藤木 久男（藤木久男きもちいい体操普及協会）

●自主企画24

時間 13:15~14:45

会場 【第9会場】 E536

- S-24 共に歩む支援のかたち、相互理解に向けて。
～それぞれの「苦労の当事者」が語り合うワークショップ～

企画 若月 淑子（ともこころのクリニック）

後援団体

北海道
札幌市
公益社団法人日本精神神経学会
公益社団法人日本精神科病院協会
公益社団法人日本医師会
公益社団法人日本リハビリテーション医学会
日本職業リハビリテーション学会
日本病院・地域精神医学会
一般社団法人 日本作業療法士協会
公益社団法人日本看護協会
公益社団法人日本精神保健福祉士協会

公益社団法人全国精神保健福祉会連合会
公益社団法人日本公認心理師協会
一般社団法人日本心理臨床学会
一般社団法人日本臨床心理士会
一般社団法人北海道医師会
一般社団法人札幌市医師会
公益社団法人北海道作業療法士会
公益社団法人北海道看護協会
一般社団法人北海道精神保健福祉士協会

(順不同)

大会組織

大会長 池田 望 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科
副大会長 大川 浩子 北海道文教大学 医療保健科学部 リハビリテーション学科
石井 貴男 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科
矢部 滋也 北海道ピアサポート協会
実行委員長 森元 隆文 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科
実行委員 阿部 雅 札幌医科大学 医学部 神経精神医学講座
(50音順) 石津紗希子 医療法人社団ほっとステーション
稲垣麻里子 北海道ピアサポート協会
小笠原啓人 北海道ピアサポート協会
岡田 宏基 北海道大学大学院保健科学研究院 リハビリテーション科学分野
小川 賢一 札幌大通りカウンセリングルーム 優しい詩
木村 麻衣 株式会社SASUKE HOLDINGS
國田 幸治 北海道大学病院附属司法精神医療センター
児玉 壮志 北海道医療大学 リハビリテーション科学部 作業療法学科
佐藤 歩 NPO法人コミュネット楽創
鹿内 清和 どさんこコロ
渋谷 卓 札幌太田病院
島田 清貴 さっぽろ香雪病院
鈴木 和 北海道医療大学 看護福祉学部 福祉マネジメント学科
高田 大志 医療法人新水 浦河ひがし町診療所
土田正一郎 俱知安厚生病院
橋本 達志 日本医療大学 総合福祉学部 ソーシャルワーク学科
宮嶋 涼 江別市立病院
向谷地悦子 社会福祉法人浦河べてるの家
村本 好孝 株式会社ここから
山 功恭 訪問看護ステーションデューン札幌
横山 和樹 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科

プログラム委員 池松 麻穂 社会福祉法人浦河べてるの家
(50音順) 賀古 勇輝 北海道大学病院附属司法精神医療センター
酒井 一浩 こころのリカバリークリニック十勝
澤田いづみ 札幌医科大学 保健医療学部 看護学科
菅原 悦子 特定非営利活動法人札幌市精神障害者家族連合会
永井 順子 北星学園大学 社会福祉学部 社会福祉学科
中島 邦宏 ぽかぽかハートのつどい
中村 慎一 株式会社 North ACT
橋本 恵理 札幌医科大学 医学部
橋本菊次郎 北海道医療大学 看護福祉学部 福祉マネジメント学科
山下 陽平 就労継続支援B型事業所 おりなす
顧問 河西 千秋 札幌医科大学 医学部 神経精神医学講座
向谷地生良 北海道医療大学 看護福祉学部

協賛一覧

医療法人資生会千歳病院

医療法人社団静和会石井病院

大塚製薬株式会社

学校法人東日本学園北海道医療大学

株式会社医学書院

株式会社金剛出版

株式会社MARS

合同会社cordmarkまだん

塩野義製薬株式会社

社会福祉士法人浦河べてるの家

就労継続支援B型事業所おりなす

住友ファーマ株式会社

第9回IPS全国研修会北海道大会実行委員会

多機能型事業所ここりか・プロダクション

特定非営利活動法人きなはれ

PEER+design

(50音順)

本大会の開催にあたり、会場での出展、広告掲載等を通して多大なるご支援を賜りました。
この場を借りて厚く御礼申し上げます。

日本精神障害者リハビリテーション学会
第32回札幌大会
大会長 池田 望



石井病院についてのお知らせ

外来診療のご案内

精神科

認知症、依存症、統合失調症、気分障害、神経症性障害など

	受付時間	診療開始時間	月	火	水	木	金
午前	8:55~ 12:00	9:00~	角田正直 (予約制) (新患・初診・再診)	角田正直 (予約制) (新患・初診・再診)	中尾友宣 (予約制) (新患・初診・再診)	角田正直 (予約制) (新患・初診・再診)	中尾友宣 (予約制) (新患・初診・再診)
午後	1:15~ 4:30	1:30~	中尾友宣 (予約制) (新患・初診・再診)	中尾友宣 (予約制) (新患・初診・再診)	角田正直 (予約制) (新患・初診・再診)	川村敏明 (新患・初診・再診)	

内科

生活習慣病（高血圧・高脂血症・糖尿病・貧血・痛風）など
発熱外来：発熱のある方は来院前にご連絡をお願いします

	受付時間	診療開始時間	月	火	水	木	金
午前	8:55~ 12:00	9:00~	池田典康	石井幸司	石井幸司	石井幸司	池田典康
午後	1:15~ 4:30	1:30~			池田典康		

○当院は、新ひだか町の住民健診、各種ワクチン接種の実施医療機関となっております

入院及び施設の概要

- 標榜診療科：精神科、内科
- 認知症疾患医療センター（道の指定医療機関）
- 主な検査機器：CT、エックス線、脳波、心電図、超音波
- 許可病床数：158床
 - 認知症病棟（54床）：認知症の症状に即した治療や看護を行う専門病棟です
 - 精神一般病棟（60床）：薬物療法、精神療法、身体的看護から病状の改善を図ります
 - 特殊疾患病棟（44床）：身体的ケアを中心に合併症治療や栄養管理など行います
- 介護医療院 II型介護医療院（42床）
 - ：要介護者の長期療養と生活支援を目的とした施設です
- サービス付き高齢者向け住宅 和「なごみ」（32人）
 - ：高齢者の安否確認や生活相談、見守りサービス等を提供します
- 付帯事業：訪問看護ステーション、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所



医療法人社団静和会 石井病院

〒056-0022 日高郡新ひだか町静内高砂町3丁目3番1号

TEL 0146-42-3031

<http://www.ishii-hp.jp>



チームで学ぶ。

医療を変える。

北海道医療大学は、
6学部9学科1専門学校の
医療系総合大学。
学部学科の枠を越えて
チーム医療を学ぶ環境で、
これからの医療をリードする、
高度な専門職を育てています。



北海道医療大学

当別キャンパス

〒061-0293
北海道石狩郡当別町金沢1757

札幌あいの里
キャンパス

〒002-8072
北海道札幌市北区あいの里2条5丁目

電話番号

0133-23-1211(代表)

薬学部◆薬学科 歯学部◆歯学科 看護福祉学部◆看護学科◆福祉マネジメント学科 心理科学部◆臨床心理学科

リハビリテーション科学部◆理学療法学科◆作業療法学科◆言語聴覚療法学科 医療技術学部◆臨床検査学科 ◆歯学部附属歯科衛生士専門学校

2028年4月 北海道ボールパークFビレッジに新キャンパス増設予定



シリダ
ケアをひらく

毎日出版文化賞
企画部門受賞

常識は後から やってくる!

精神医療の常識を溶かし、対人支援の枠組みを更新しつづける「べてるの家」の向谷地生良氏。当事者がどんな話をしても彼は「へえー」と興味津々だ。その「へえー」こそがアナザーワールドの扉を叩く鍵だったのだ!

大澤真幸氏の特別寄稿「〈知〉はいかにして〈真実〉の地位に就くのか?」は「良心的兵役拒否者」である向谷地氏に言語論から迫る必読論文。

むかいやち

向谷地さん、
幻覚妄想ってどうやって
聞いたらいいんですか?

向谷地生良

浦河べてるの家理事長

聞き手 白石正明

「ケアをひらく」担当編集

特別寄稿 大澤真幸

目次

- I 幻覚妄想ってどうやって聞いたらいいんですか?
——「へえー」がひらくアナザーワールド
- II 私はこんなふうに考えてきた
——常識は後からやってくる
- III いつも土手の上から眺めていた
——向谷地家の秘密
- IV 大澤真幸特別寄稿
〈知〉はいかにして〈真実〉の地位に就くのか?
——当事者研究の奇蹟



A5 頁 296 2025 年

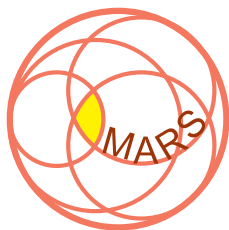
定価: 2,200 円 (本体 2,000 円 + 税 10%)

[ISBN978-4-260-06153-7]



医学書院

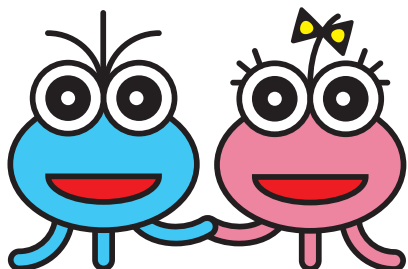
〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 [WEBサイト] <https://www.igaku-shoin.co.jp>
[販売・PR部] TEL: 03-3817-5650 FAX: 03-3815-7804 E-mail: sd@igaku-shoin.co.jp



メディカル&リカバリーサービス



株式会社 MARS



株式会社 MARS は現代病ともいえる「こころ」の問題に悩む人たちのリカバリーへの支援、医療、仕事、住居の支援などには、会社全体で取り組み、「精神保健福祉事業」「医療関係支援事業」「出版及び企画開発事業」「人材開発・研修支援事業」「不動産業務事業」を行っています。

MARSがやってること

「精神保健福祉事業」の内容

※多機能型事業所マーレ

- ・生活訓練・訪問生活支援
- ・就労継続支援 B 型

※就労継続支援 B 型事業所テララ

※グループホームアパルフェ

(千葉県 1 カ所・東京都 4 カ所)

※就労支援事業所コパス

- ・就労移行支援・自立訓練
- ・定着支援

※生活介護事業所そにあ

合同会社 WARP

株式会社 MARS の就労継続支援 B 型のメンバーが働く店舗を運営しています

Cafe
ORIZZONTE

カフェ オリゾンテ

流山市前平井 121-2
セントラルマークス 2-1
04-7150-0606



松戸市東松戸 3-5-18
080-3217-8282



**日本精神障害者リハビリテーション学会
第32回 札幌大会**

2025年10月20日発行

発行者：第32回 札幌大会 大会長 池田 望

編 集：第32回 札幌大会 事務局